

(別添1)

【大阪府 貝塚市】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	6,223	6,075	5,886	5,666	5,368
② 予備機を含む 整備上限台数	7,156	6,986	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	6,000	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	6,000	0	0	0
⑤ 累積更新率	0.0%	98.8%	100.0%	100.0%	100.0%
⑥ 予備機整備台数	0	900	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	900	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0.0%	15.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する  
(端末の整備・更新計画の考え方)

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：6,600台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にも再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にも再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・その他(GIGA第2期リース業者による下取り及び委託) : 6,600台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

- 令和7年4月 処分事業者 選定
- 令和8年4月 新規購入端末の使用開始
- 令和8年4月 使用済端末の事業者への引き渡し

○その他特記事項

(「⑤ 累積更新率」が令和10年度までに100%に達しない場合は、その理由)  
特になし。

(別添2)

【大阪府貝塚市】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

貝塚市の学校数：小学校10校、中学校4校、義務教育学校1校

必要なネットワーク速度が確保されている学校数：0校 (0%)

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和8年度中にネットワークアセスメント実施予定。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和8年度中にネットワーク環境の更新予定

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

## (別添3)

### 【大阪府貝塚市】

#### 校務DX計画

本市では、以下の4点の校務の見直しとDX化に取り組んでいきます。

#### 1. タブレット端末のさらなる利活用

##### ①教員の業務効率化

- ・タブレット端末を活用した出席管理、成績入力、教材配信等をシステム化する。
- ・Google Classroomやロイロ・ノートを活用した校務のペーパーレス化を推進する。

##### ②研修の実施

- ・教員向けICT活用研修を定期的実施し、ICTスキルの向上を図る。

#### 2.統合型校務支援システムの導入

##### ①統合型校務支援システムの導入

- ・出席管理、成績管理、指導要録作成、健康管理などの校務を一元管理する。
- ・クラウド化によるデータの共有・分析を迅速に行う。

##### ②運用ガイドラインの策定

- ・教員が効率的に活用できるよう、統合型システムの活用マニュアルを整備する。
- ・システムの標準化を進め、全校統一の運用ルールを設ける。

##### ③操作研修を定期的実施し、スムーズな移行を支援

- ・教職員向け活用研修を定期的実施し、活用スキルの向上を図る。

#### 3.教育情報セキュリティポリシーの策定

##### ①貝塚市の学校全体で統一された情報セキュリティ基準の策定

##### ②セキュリティインシデント対応計画の策定

- ・セキュリティインシデント発生時の対応フローを明確化し、迅速な対処を可能にする。

#### 4.生成AIの校務での利活用

##### ①校務での活用

- ・AIを活用した案内や学習プリントのたたき台を作成する。
- ・授業で使用する教材等のたたき台を作成する。
- ・学校行事、指導方法など、アイデアのたたき台を作成する。

##### ②教職員研修の実施

- ・生成AIの活用方法やリスク管理についての研修を定期的実施する。
- ・生成AIの効果的な利用方法を学び、校務の効率化を図る。

(別添4)

## 【貝塚市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、「貝塚市 教育大綱」において、主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、実用性のある知識・技能の習得と、未知の状況にも対応できる思考力や判断力、表現力の育成を図るうえでICTの活用を位置づけている。

これをもとに、次のとおり、教育の充実をめざす。

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進を図り、児童生徒の主体的な学習態度を養う。
- ・思考力や判断力、表現力を高めるため、ICT機器を活用した学習を推進する。
- ・ICTを活用した学習環境を整備することで、児童生徒の学びを支える。

#### 2. GIGA第1期の総括

令和6年度全国学力・学習状況調査の学校質問紙において、本市の1人1台端末をほぼ毎日活用している学校の割合は、小学校90.9%（週3回以上 9.1%）、中学校80.0%（週1回以上 20.0%）となっており、全国平均と比べても極めて高い結果となっている（全国平均 小学校69.0% 中学校67.5%）。また、同調査の児童生徒質問紙において、「1人1台端末を活用することによって、楽しみながら学習を進めることができる」の問いに対して、肯定的回答の割合は、小学校90.1%、中学校83.0%となっており、意欲的に活用できている（全国平均 小学校86.0% 中学校82.4%）。

一方、「授業時間以外（家庭学習を含む）に、普段、1人1台端末を勉強のために使っていますか」の問いに対して、「全く使っていない」と回答した割合は、小学校21.9%、中学校28.4%となっている（全国平均 小学校25.9% 中学校28.4%）。

1人1台端末の活用について、学校の授業が中心で、家庭学習での活用に課題がある。また、小学校に比べると中学校での活用率が低い割合になっている。学校間や学級間、教員間の活用頻度にも差が見られ、さらなる活用の促進が課題となっている。

これらの課題に対して、教職員が1人1台端末の活用のよさをもっと実感できるように、授業・家庭学習での活用の好事例の収集・発信、研究授業等での具体的な活用方法の研究が必要である。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

今後、次のとおり、1人1台端末の利活用を推進する。

1人1台端末の積極的活用に向けて：

- ・各校の教員がICT活用の目的、活用のよさが実感できるよう、ICT活用に関する研修を計画的に実施する。
- ・デジタル教科書やデジタル教材等、授業支援ソフトウェア等の活用について、実践校の事例等を市内の研修等で発信する。
- ・1人1台端末を週3回以上活用している学校の割合を向上させる（目標値100%）
- ・家庭学習用のアプリや教材の提供により、週1回以上の端末持ち帰り学習を推進し、家庭学習の定着を図る。

個別最適・協働的な学びの充実：

- ・児童生徒が目的、場面、状況によって、ICTを使い分け、課題を解決できるように、授業での活用を促進する。
- ・デジタル教材（タブレットドリル等）を活用し、個別最適な学びの充実を図る。
- ・児童生徒が授業支援ソフトウェアを活用し、オンライン共同編集したり、グループディスカッションしたりできるように支援する。

学びの保障：

- ・日本語指導が必要な児童生徒及び障がいのある児童生徒に対して、アプリを活用し、学びの幅を広げる。
- ・不登校児童生徒に対して、メタバース空間による支援事業を実施する。

ICT支援体制：

- ・GIGA運営支援センターを設置し、教職員の困りごとやICTの環境整備について対応する。

ICT環境の充実：

- ・各校でGIGA担当者を選定し、ICT環境の充実、ICT活用の促進を図る。また、学校間の活用の格差をなくすために、定期的な意見交換会を実施する。
- ・校務支援システムの導入に向けて、検討する。
- ・ICT機器の整備・更新について、計画のとおり行い、1人1台端末環境を引き続き維持する。（R7年度に端末の更新を実施予定）